県政タウンミーティング　会議録

開催日時　　令和２年１月27日（月）　18時15分～20時30分

場　　所　　北斎ホール（小布施町）

テ ー マ　　「台風第19号災害からの復旧・復興に向けて
　　～農業再生・まちづくりを中心とした復興～」

目　　次

１　開　　会……Ｐ２

２　知事あいさつ……Ｐ２

３　小布施町長あいさつ……Ｐ３

４　意見交換……Ｐ５

・付箋方式による意見交換

（議題１）「困っていること、不安なこと」

（議題２）「将来、どういうまちをつくっていきたいか？」

（議題３）「自分達でできることは何か？」

・グループによる意見交換

５　小布施町長総括コメント……Ｐ26

６　知事総括コメント……Ｐ26

７　閉　会……Ｐ30

進　行　役　　内山二郎　氏（フリージャーナリスト
公益財団法人長野県長寿社会開発センター理事長）

１　開　会

【長野県企画振興部広報県民課長　池上安雄】

皆様、大変お待たせをいたしました。ただいまから県政タウンミーティングを開催します。

本日は、台風第19号災害で大変なご苦労を強いられている中、また急なご案内にもかかわらず大勢の皆様にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は進行を務めます長野県の広報県民課長の池上と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日のタウンミーティングは、「台風19号災害からの復旧・復興に向けて」をテーマとしております。発災から３か月余が経過しましたが、まだまだ大変な状況の方も大勢いらっしゃるかと思います。本日はそうした皆様のお声をしっかりとお聞きし、住民の皆様やさまざまな地域活動に取り組まれている皆様と行政とが協働して、この地域の将来に向けてどのような取り組みができるか、意見交換をさせていただければありがたいと考えております。

それでは初めに、阿部知事からごあいさつを申し上げます。

２　知事あいさつ

【長野県知事　阿部守一】

皆さん、こんばんは。今日は、夕方からのお忙しい時間帯に大勢の皆様方に県政タウンミーティングにご参加いただきまして、大変ありがとうございます。

まず初めに、この小布施町が台風19号災害で大変大きな被害を受けました。被災された皆様方に、改めて心からお見舞いを申し上げます。

今日は、私ども長野県、そして市村町長にもお越しいただいていますが、小布施町と一緒に皆様方と台風19号災害からの復旧・復興、そして未来のまちづくりに向けて、ぜひいろいろな課題を共有させていただき、我々も行政として、しっかりと責任を持って復旧・復興に取り組んでいきたいと思います。また小布施町は、本当に地域の皆さんの主体的なまちづくりの中で、これまでも発展されてきたところであります。この台風19号災害を受けて、ぜひ未来のまちづくりをどうしていくということについても皆さんと一緒に語り合っていきたいと思っております。

災害以降、ご自宅が被災された方々には大変不自由な暮らしを強いられているという状況でありますし、また農地をお持ちの皆様方におかれては、これからどうやってまずは土砂を撤去し、そして営農を継続していくということでいろいろな悩み事や課題があると思っております。

今日は、あちらのほうに県の職員と小布施町の職員の皆さんが大勢来ています。個別の相談ではなかなか十分対応できていない、あるいは我々はこんなに頑張っているのに行政は一体何を考えているのかわからないというようなこともおそらくあるんじゃないかと思います。

ぜひ率直なご意見をどんどん出していただいて、私もぜひ課題を共有したいと思っていますし、課題を共有しないと、私も知事として何をやれるかわからないというところがあります。そういう意味では、ぜひ率直な忌憚のないご意見をどんどん出していただきたいと思います。またいろいろお話しいただく中で、県として、あるいは町として、こんな考え方でこういうふうにしていきたいということもできる限り皆さんと共有させていただきたいと思っています。

これまでも、本当に多くのボランティアの皆さんが全国から駆けつけていただいて、この被災地を応援していただいています。また義援金も、今日も私、企業の方からお預かりしたりしておりますが、どんどん多くの皆さんが義援金の面でも協力をいただいています。

この台風19号災害からの復旧・復興は、県として目下の最重要課題であり、もちろん県民の皆さんもそうですし、県外からボランティアでお越しいただいた方々、義援金で応援して

いただいている方々など、全ての皆さんと一緒になって、「ＯＮＥ　ＮＡＧＡＮＯ」を合言葉にしてより力強い復旧・復興を進めていきたいというふうに思っております。

これからも我々行政として、被災された皆様の想いにできる限りしっかりと寄り添わせていただき、暮らしの再建、そして生業（なりわい）の再建に向けた取り組みをしっかり進めていきたいと思っております。さまざまな課題がたくさん存在していると思いますが、どうか、引き続き被災された皆様方におかれましては希望を持っていただいて、前を向いて進んでいっていただくことを心からお願い申し上げます。また、これまで被災された方々を支えていただいている皆様方におかれましては、ぜひ引き続きのご尽力、ご協力、ご支援をいただきますよう、心からお願い申し上げたいと思います。

今日のタウンミーティングが、この台風19号災害から、応急対策から、次の復旧・復興モードへしっかりと転換をしていく大きな契機になっていくことを心から願っているところであります。被災された皆様方に改めてお見舞いを申し上げて、私からの冒頭のあいさつとさせていただきたいと思います。本日はありがとうございます。

【長野県企画振興部広報県民課長　池上安雄】

続きまして、市村町長からごあいさつをお願いいたします。

３　小布施町長あいさつ

【小布施町長　市村良三　氏】

皆さん、改めましてこんばんは。私は市村良三でございます。本年、小布施町は、元旦から今日27日までですが、ほとんど雪らしい雪が降らないという状況であります。私も結構長く生きておりますが、私の記憶にある限り初めてだなというふうに思います。

後ほど県知事にもお願いをするところでありますが、今、千曲川河川敷内の堆積した土砂をどう片づけるかという問題がありまして、いろいろ手続が長引いてなかなか着手できておらないと思いますが、これをこれから本格的に始めるに当たっては、雪がないのはありがたいなと思っております。

今、本当に地球上の課題になっております気候の変動という観点から考えるとやや心配であります。去年の大型台風のしばしばの到来やさまざまな災害も、その温暖化の大きな意味であろうというふうに言われておりますので、そういう見地から考えるとちょっと心配ではあります。

そんな中ではありますが、今日は大変お忙しい中を、阿部知事直々に、幹部の皆さんも大勢、小布施町においでいただきまして、県政タウンミーティングをお開きいただきます。阿部知事をはじめ県幹部の皆さん、ありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

そしてまた、６時過ぎという大変お忙しい時間にもかかわらず、こんなに大勢の町民の皆さんにおいでをいただきまして、本当にありがとうございます。お顔を拝見いたしますと、今回の19号災害で被災された皆さんも大変多くいらっしゃるので、今日はぜひいろいろなお話を具体的に、しかも建設的にしていただけたら大変うれしいなと思います。今日の県政タウンミーティングの主眼も、冒頭、阿部知事さんからお話があったことが主題になるだろうと思っております。

台風19号の被災以来、阿部知事やそのお隣の林長野地域振興局長はじめとして、それぞれの県の皆様には、大きなお力添えをいただいておりますことにも大変感謝をいたします。また被災された皆様方におかれては大変強い気持ちがおありで、大変だけどもう一回やるぞという気持ちを強く私は感じさせていただきました。それから、今、日本中で問題になっております町内会、あるいは、私どもの町では自治会というふうに呼んでおりますが、その自治

会の皆さんの結束力の強さ、さらには、町内に様々な団体がございます。

例えば、商工会青年部の皆さんであるとか、あるいは「笑顔プロジェクト」さんという、東日本大震災以来、その復旧・復興に努められているとてもすばらしい民間の団体が小布施町にあります。その皆さんをはじめ各種団体の皆さん、そして小布施町内の個人でボランティアに参加されている皆さん、さらには日本国中から小布施町のために駆けつけてくださいました多くのボランティアの皆さんのお力で、被災をされたお家や倉庫などの建物に関しても、本当にそういう力が一体となって、再建に入っているお宅も大変多くて、これはもう力強さを感じて、私たちも本当に一生懸命一緒にやらなければいけないなと気持ちを新たにしているところでございます。

そんな中でございますが、今日は課題を共有するのが一つの大きな目的というような阿部知事からのお話もありました。私たち町行政として大きな問題として抱えている点が３つございます。ちょっと県の幹部の皆さんにはお聞きいただきたいんですが。

その第１番目は、千曲川河川敷内にあります畑の排土の問題であります。これは、例えば平成16年、18年に越水こそしませんでしたが、千曲川河川敷内が１キロにもわたって水に浸ってしまうというような被害がありました。よく覚えておりますが、そのときですら、土砂がこれだけ堆積してしまうということはありませんでした。つまり小布施町が始まって以来のことだろうと思います。

そして、国や県のお力もお借りしながら、農地内の道路についてはほぼ復旧ができましたけれども、その道路と畑の間の落差が高いところは60センチもあります。これでは畑の中に入ることができません。もう２か月もしないうちに消毒ということをしなければいけない。つまり営農を開始しなければいけないわけでありますが、畑に入れない状態であります。これはぜひ県・国のお力をお借りして、急いで進めていかなければいけないというのが第１の話であります。

国もいろいろなことを言ってきます。100％補助するようなことを言いながら、やや設計と違うとかですね、事務的な問題でも担当者は大変苦しんで、遅れてしまって、行政は何をしているんだということに私自身も歯がゆさを感じております。激甚災害でありますから、超法規的な措置で一刻も早くいろいろなものをいろいろな手を使って、一緒になって排土をお願いをしたいと思います。

そしてその土の持っていき場所ですね、この受け入れ先がありません。これは先ほど知事さんともお話をしたんですが、国の予算をもう少しつけていただいて、遠くても、コストはかかっても、排土の行き先を探すというようなことが第１の課題だというふうに小布施町は考えております。

第２番目は、越水をしましたので、町の中でありますが、雨水排水機場をはじめとして幾つかの雨水マンホールが水没してだめになってしまいました。これも、今、建設の人たちが一生懸命やっていただいておりますが、それにしても、一日も早い復旧のためには技術者が必要であります。これを、ぜひ県あるいは国から派遣をしていただきたいというのが第２の課題であります。

さらに３つ目の課題というのは、令和元年度が間もなく終わりますが、令和元年度の当初予算、最初に組んだ町の予算ですね、この60％近くが今回の災害によって増えてしまっている。国の予算ももちろん入っているわけですが、それにしてもあっという間に1.6倍の予算になった。これは、多分、最終的には当初の予算の２倍ぐらいにはなるだろうと思います。この財政的な問題についても、さらなる国そして県からのご支援が必要です。私からこの３つの問題を、ぜひ県の阿部知事さん、そして幹部の皆さんに協力していただきたいと思います。

それから今日ご参加の皆さんの中には、それぞれの課題をお持ちだろうと思います。ぜひ

今日は内山先生が指揮していただきますので、先生のお力をもって、どなたかをですね、例えば県知事さんを攻撃するとかそういうような話ではなくて、まちづくりも絡んでいますので、建設的にこんなふうにしていったらどうだろうというようなことをご一緒に考えて、ご一緒に行動に移すという建設的な会議であってほしいなと心から願います。

限られた時間ではありますけれども、ぜひ積極的にしかも建設的なご意見をいただく中で、中身の濃い会議にしていただけたら大変うれしいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

【長野県企画振興部広報県民課長　池上安雄】

それではこれからおよそ２時間を予定して、意見交換に入ってまいります。なお、この意見交換の内容につきましては、お名前などの個人情報を除き、後日、県のホームページで公開させていただきます。それから本日は公開での開催となりますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

お手元には昨年10月に県で策定しました復旧・復興方針とアンケート用紙を配布しております。アンケートにつきましては、会議終了後、回収箱にご提出いただきますよう、あらかじめお願い申し上げます。

それでは本日の意見交換の進行役であります内山二郎さんをご紹介申し上げます。内山さんはフリージャーナリストとして執筆や講演に取り組むかたわら、長野県長寿社会開発センター理事長として、高齢者の皆様の生きがいづくりなどの支援にご尽力されるなど、多方面でご活躍になっておられます。

また、このたびの台風第19号災害において、長野県災害時支援ネットワークのメンバーとして被災者支援や被災地支援にご尽力をいただいております。

それでは、内山さん、この後の進行をよろしくお願いいたします。

４　意見交換

【内山二郎　氏】

皆さん、こんばんは。今日のタウンミーティングを進行させていただきます内山二郎です。どうぞよろしくお願いいたします。

ただいま、知事、それから町長さんからお話がありましたが、昨年10月13日の台風19号から約３か月半になります。そして、町長さんのお話にもありましたが、この間、行政をはじめ町のいろいろな団体、それからボランティアなどの皆さん、自治会の皆さんなどが、一つになって復旧に取り組んできたわけでありますが、私はテレビや新聞を見ていて、その報道を見るたびに、さすが町民と行政の協働によるまちづくりが進められてきた小布施だなという感じを強く抱きました。

しかし、これから復旧・復興に本格的に取り組んでいくわけでありますが、課題はたくさんあります。今日のタウンミーティングでは、こちらにありますが、３つのテーマについて考えたいと思います。

１つ目は、今皆さんが「困っていること、不安なこと」、つまり課題であります。２つ目は、この災害を乗り越えて、この小布施をどういう「まち」につくっていくのか、いきたいのかというテーマです。３つ目は、ではそういう中で行政に全てお任せするのではなくて、「自分たちが自らできることは何なのか」ということを考えていただきたいということであります。

この３つのテーマについて、付箋方式で意見交換を行いたいと思いますが、皆様、入り口でいただいた中にこんな資料がありますよね。ちょっとお出しいただきたいと思います。

３つの付箋、第１のテーマ・第２のテーマ・第３のテーマ、ピンク・黄色・もえぎ色とあり

ますが、そこに率直なご意見を書いていただき、そして地域とお名前も記していただくと、後の密度の濃いディスカッションに役立つと思います。ということで始めたいんですが、皆さん固くなってますね、雰囲気が固いです。

では５分間だけ時間をとりますので、町内の皆様、もう十分顔見知りかと思いますが、知事と握手したことがあるっていう方もいらっしゃいますが、今日は、県の行政の皆さん、それから町の行政の皆さんもおいでになっております。ＪＡの皆さんもおいでになっているというふうにお聞きしました。

ちょっと５分間だけ自由に立って、初めての人のところに行って、こんにちはと握手をする。私、どこの何々だけれどもどうぞよろしくと握手をする。５分間で何人と握手をするかという、アイスブレイクのゲームでございます。プリーズ、スタンドアップ、お願いします。

行政の皆様も知事さんも自由に町民の皆さんと握手してください。はい、始めてください。知らない人のところへどんどん行ってください。

＜アイスブレイク・ゲーム＞

【内山二郎　氏】

はい、そろそろよろしいですかね、元の席にお戻りください。後半にまたグループになって自由にお話をする時間がありますので、そのときに行政の皆さんも呼び込んでお話をしたいと思います。

それでは、早速、始めたいと思いますが、この３枚の色違いのポストイットですね。まず１つ目が「困っていること、不安なこと」、２つ目が「どんなまちをつくりたいか」、３つ目が「自分にできることは何か」ですけれども、まずは１つ目のピンクのポストイットに書いてください。同時に２つ目や３つ目のテーマについても書いていただいて結構ですが、まずはピンクから書いていただいて、スタッフがおりますので渡していただきたいと思います。スタッフの皆さんは書けたところからどんどん収集してこちらの模造紙に貼ってください。同時に２番目、３番目のテーマについても書いてください。そして、自分の地域、あるいは所属とお名前も入れていただくとありがたいです。

そうしたら、スタッフの皆さんは上がってきたポストイットを仕分けしてください。それから収集のスタッフの皆さんは客席にどんどん入っていって、書けたポストイットからいただいてください。

【内山二郎　氏】

はい、２番目、３番目のテーマについても、どんどん記載していって結構です。できればピンクから始めていただきたいと思います。

お名前いいですかね、皆さん。黄色、もえぎ色も同時にお書きいただいて結構です。この方法はいろいろなところで使っているんですが、どんな意見が出てきても、「おまえ、それじゃだめだ」とは言わないということです。どんな意見もみんなが受け止め合うということが基本でございますので、どんなことをお書きいただいてもＯＫです。

お名前を書いていない方が随分いらっしゃるということなので、お名前を書くと議論が深まってよろしいかと思います。

地区とか、町外の方はそれなりに市とか町とかというふうにお書きいただきたいと思います。それからグループで参加の方は、その所属のグループをお書きいただくといいのかなと思います。

はい、ありがとうございます。随分、集まってきましたね。そして、グルーピングができた

ら、スタッフの皆さんはそこに小見出しを付けていってください。お願いいたします。
はい、それでは時間が限られていますので、同時進行でいきたいと思います。まだまだ仕分けが終わってはおりませんが、１番目のテーマの「今、困っていること、不安なこと」ということで、先ほど町長さんからもお話がありました畑の問題、排土の問題、それから水害のハザードマップの問題、それから堤防の問題、それから自宅をどうするかという住居の問題ですね。それから災害を忘れないというような問題、それから地域力をどうつけていくのかというような問題がありますね。よろしいですかね、同時進行でよろしいですかね、皆さんもお待ちになっているので。
それではまず、あの記憶は生々しいですが、水害、ハザードマップということで、Ａさんですね。今後も大洪水が心配とおっしゃっています。Ａさんどこにいらっしゃいますか、はい、Ａさん、お気持ちを。

【参加者Ａ】
もう二度とごめんだから。

【内山二郎　氏】
水害はもう二度とごめん、はい、ありがとうございます。そして水害については、温暖化が進んで台風が毎年来るようになる、抜本的な治水対策を早急にお願いしたい。Ｂさんですか、Ｂさんどこにいらっしゃいますか。はい、お願いします。

【参加者Ｂ】
それが一番、将来の不安ですね。

【内山二郎　氏】
不安、また起きるんではないかと。

【参加者Ｂ】
そうそう、それが一番です。

【内山二郎　氏】
とにかく安全な小布施にしたいということですよね、はい。そしてどこに行きましょう。それから水害、将来またこれが起きるんではないかという不安がありますということです。
そして畑の問題というのが出てまいりました。河川敷の畑にトラック、ＳＳ（スピードスプレヤー）が入れない、これがとても困っていることです。Ｃさん。

【参加者Ｃ】
書いたとおりです。

【内山二郎　氏】
ＳＳ（スピードスプレヤー）が入れない。

【参加者Ｃ】
消毒の機械ですね。消毒作業ができないです。

【内山二郎　氏】
作業がね。あれは、春から大変ですもんね。はい、ありがとうございます。
マイクはいいですかね。そして、春に農地にＳＳ（スピードスプレヤー）・・・、同じような意見ですね。そして河川敷内の畑の今後のことがとても心配、Ｄさんがおっしゃっていますよ。Ｄさん、いらっしゃいますか、はい、マイクをお願いいたします。お気持ちをどうぞ。

【参加者Ｄ】
河川敷内は、みんながご存じのとおりで、農業の大型機械も入れられない状態ですし、かなり広い面積であるのと、何というんですかね、一大生産地ではあるので、農家が全体的に、どうしても高齢化が進んできている中で、これがきっかけで、畑も手放そうとする方が増えてくるような気がしています。

【内山二郎　氏】
産業の柱である農業が、これからどうやって続けていけるかということがとても心配ということであります。
そして排土の問題。先ほど町長のお話にもありましたが、排土問題、浸水した果樹園と泥ですね。これはＥさんですね。Ｅさん、後ろからマイクが行きます。どうぞ。

【参加者Ｅ】
皆さんと同じ意見なんですけれども、２、３日前、人のバックホーを借りて試みたんですが、やはり個人では無理でした。

【内山二郎　氏】
個人では無理。

【参加者Ｅ】
はい。ですから、やはり行政の方のお力を借りないと、ちょっと簡単にはいかないと思いますので、よろしくお願いします。

【内山二郎　氏】
行政の力がほしいと。はい、ありがとうございます。次、どこに行きましょうか、排土の問題がありました。排土、もう一人、行きますか。Ａさん、先ほどありましたね。
次は、産業を支えてほしいというくくりがあります。畑のリンゴ、桃、プルーンの木に付着している、変な異物が付着している。これはＦさんですね。お願いいたします。

【参加者Ｆ】
畑全体が浸水したもので、排せつ物みたいなのが、結構、木に付着しちゃっているんですよ。それが、雨が降っても、なかなか落ちないんです。それが今後どうなるか、ちょっと心配です。これから芽が吹く時期になっていくんですけれども、ちゃんと芽が吹いて、花が咲いてくれるかどうかが、それが心配です。

【内山二郎　氏】
なるほど、心配ですよね。そして、春までに剪定が間に合わない、土砂よりも枝、これも今と同じようなことですね。そして自宅修理の費用が不足している、もとに戻れるか、心配で

すと。Ｇさん、お願いします。

【参加者Ｇ】
　これは自分の責任もあるかと思いますけれども、なかなか共済とか保険が思った以上に少なくて。今まで水害とかがなかったので、こっちもちょっと油断していたので、なかなか足りなかったので、心配です。

【内山二郎　氏】
　生活をもとに戻すのに、やっぱり資金的な問題がとても心配だということですね。

【参加者Ｇ】
　そうです、はい。

【内山二郎　氏】
　そしてどこへ行きましょうか。お金の問題、今、資金の問題が出ました。そして災害を忘れないというくくりで、町の皆さんが災害のことを忘れてしまうのがとても心配です、不安です。Ｈさん。

【参加者Ｈ】
　すみません、私、小布施町社協で、ボランティアセンターで、ボランティアさんを集めたりとか、お電話させていただいたりしたんですが、何ていうんでしょう、やっぱり、日がたってしまうとボランティアへの参加はちょっと厳しいねという人も結構いらっしゃったので、このまま忘れられてしまうのが不安で書きました。

【内山二郎　氏】
　忘れられるのが不安ということですね。そして堤防、これもハードの問題、堤防の強化、高速道路と離れている地域、桜を植えていないと。これはＩさんですね。お願いいたします。

【参加者Ｉ】
　桜堤は皆さんご存じだと思うんですけれども、一部、高速道路が堤防から離れているところがあるんですよ。北の方なんですが。そこが桜が植えてなくて、少しずつ土を盛っていただいて準備を進めてもらってはいるんですけれども、まだ桜が植えてもらっている状態にないということです。

【内山二郎　氏】
　桜が植えられてない。

【参加者Ｉ】
　今回、たまたま、穂保の方だったんですけれども、もしそれが放置されているとすれば、そこが破堤した可能性が大きいかなということで。

【内山二郎　氏】
　桜を植えてないところが破堤したのではないかということですね。

【参加者Ｉ】
そうです。堤防がそれだけ弱いということです。以上です。

【内山二郎　氏】
なるほど、ありがとうございます。次、どこへ行きましょうか。ボランティアのこと、お金の問題はいいですね。

【事務局】
ちょっと読んでいいですか。ボランティアをしたいと思いますが、仕事をしなくてはならず、気持ちはありますがというご意見。商工会青年部の方です。

【内山二郎　氏】
商工会青年部、名前はありませんでしたか。ボランティアはしたいんだけれどもというご意見でした。よろしいですかね。はい、もう１人、行きましょうか。

【事務局】
学生ボランティアの受け入れ拠点の準備をお願いしますということですかね。

【内山二郎　氏】
Ｊさんですね。はい、お願いいたします。

【参加者Ｊ】
すみません、学生ボランティアのボランティア拠点の受け入れの準備をしているんですけれども、資金面だったり、小布施町や長野市だったり、行政をまたぐという点で苦労しています。

【内山二郎　氏】
なるほど、ボランティアを受け入れたいんだけれどもということですね。
はい、デリケートな問題というのがありますね、営農意欲の減退、これが心配。Ｋさん。やる気がなくなっちゃうとそれが心配。

【参加者Ｋ】
被害が軽かったので気楽にしていると、周りから何か言われるのではという心配で、非常にデリケートな問題。

【内山二郎　氏】
デリケートですね。地域力、これは総合して地域力につながっていくと思いますが、少子高齢化により地域の力が弱っている、自治会役員のなり手が不足している。これはＬさん。これはとても大きな問題、はい、お願いいたします。

【参加者Ｌ】
やっぱり少子高齢化で人が少なくなってきている、地域の力が弱くなっているという現実があります。そこに今回のような有事が発生したときに、どのようにお互いに協力し合うか

ということなんですけれども。前もって、やっぱり組織づくりとか、そういうものがあって、多分、活動ができると思うんです。その組織づくりの力が弱くなっているので、これがちょっと心配。

【内山二郎　氏】

なるほど。組織づくりの力、自治意識ということにもつながっていくと思いますが、自治の力が弱くなっているということですね。

本当に排土の問題とか畑の問題、そしてこれから農業が続けていかれるかというような問題。それから住宅の再建の問題、そこにはお金が絡んでくるという問題。それから、この災害がどんどん風化してきている。やっぱり災害を忘れないという、そこのところがとても大きな問題ではないか。ボランティアを受け入れたいんだけれども、そのための仕組みとか、お金、資金ですね、受け入れ資金が必要であるというような問題がありました。

そして最後にですね、やっぱり自分たちの地域を自分たちでどう守っていくのか、自治力を高めていくのかという、そういう力が弱まっているのではないかというようなご意見が出てまいりました。

どうですかね、知事。いろいろな問題、排土の問題など、大きな問題だと思いますが。これは行政の力も大いに必要だと思いますが、お願いいたします。

【長野県知事　阿部守一】

どうも、皆さんありがとうございます。県の職員も大勢来ていますので、私が間違ったことを言ったらちょっと訂正して。私が答えさせていただける範囲でしっかりお答えしていきたいと思いますが、まず、最初の排土の問題は、長野県の他の自治体でも問題なので、これは市町村と協力して、ぜひしっかり確保していきたいと思います。

それで、国の補助金申請、いろいろ言われて大変だということがあるようですので、そういうのは我々とも共有していただいて、今回、国はかなり手厚い支援措置を講じてもらっています。ですから、もうちょっとこうならないのってどんどん言っていったほうがいいと思いますので、そこはまた事務的に共有してもらえればと思います。

それから、先ほども町長さんとお話ししましたが、国庫補助金の対象で、探せる範囲が狭まっているのなら、もっと広げて探せるようにしていったほうがいいかなというのは、一度、農政部に話をしたんで、農政部、結局、どうなの。

【長野県農政部農地整備課　企画幹兼計画調査係長　柳澤和道】

農政部の企画幹の柳澤と申します。農地の場合ですが、やはり国の方で補助ができるのは、10アール当たりいくらという上限が決まっていまして、要望はしたんですけれども、なかなかそこが変わらないということがあります。なるべく補助対象となる場所を探すということもいろいろ考えているところです。

【長野県知事　阿部守一】

見つからなかったら、町と一緒に国に何とかしてくれというか、それも駄目なら、市村町と県で何とか負担するとか考えないと、いつまでたっても変わらない状況ではまずいので、そこはまた一緒に検討したいと思います。

それから、町長の２点目の人の話です。人の話は、今も長野地域振興局からも応援させていただいているかと思いますが、今、全国的な市町村の応援の仕組みも受けられるようにつくったりしているので、ご要望はそういうところにしっかりつないでいきたいと思っていま

す。

今、長野県も、実は、東日本大震災の後、東北に応援職員を出していたんですが、今回の台風19号災害で、大変申し訳ないんですが、全部引き上げさせてもらいました。引き上げさせてもらった上で、今、長野県に他の県から応援してもらっているという状況ですので、そういう意味で、県からも市町村にできるだけ応援はしていきたいと思いますが、県自体が人手が足りない状況なので、全国的に確保する方策はぜひ一緒に考えていきたいと思います。

それから財政的な面ですが、長野県も相当貯金していたものを取り崩して、今回の災害に対応させてもらっています。600億円近く長野県は貯金していて、私が知事になってから10年間で約倍ぐらい、いわゆる基金を貯めたんです。何で貯めているかといったら、緊急の必要があるからで、まさにこういうときに使わなければいけないということで貯めて、多分、一時的には100億円近く少なくなると思います。

ただ、一方、国からもいろいろな補助金等が入ってきているので、少しずつ財政的には回復させていきたいと思っていますので、小布施町の財政運営が大変だというのは十分わかります。ぜひ、できるだけ有利な制度を使う、そういうところでまたご協力をさせていただきたいと思います。

それから、いろいろご意見をいただいた中で、まず河川、治水の問題が基本的にあるわけですが、報道等でも出ていますけれども、先週、緊急治水対策会議というのを開いて、これは国と県で主催をして、そして流域の市町村にも入っていただいて、そもそも今回の根本原因は千曲川流域の治水対策の問題なので、どうしていくかという方向性を議論して、一定の方向性を出させていただいています。

これは、先ほどもいろいろお話が出ていましたが、堤防の強化であったり、遊水地の設置であったり、そもそもの川自体の対策をやっていくということと、それから流域の対策ですね。既にプログラムをつくったりとか、いろいろな対策を組み合わせて、河川に流れ込む水の量を減らしていこうというような取り組みだったり、あるいはまちづくりのあり方だったり、情報伝達、避難誘導などのソフト面の対策、この３つの柱で千曲川流域の治水対策をやっていきましょうということでありますので、目指しているのはまず５年間で千曲川本川から水が溢れて、少なくとも住宅部に影響を出さないようにしていこうということでやっています。

今まだ具体的にどの箇所でどうするかというところは公表させていただいてないです。国の予算もまだ決まってないですし、今、ちょうど、県の予算もまだ私のところで査定中なので、具体的な箇所を出させていただいていませんが、国の予算が固まれば、こういう箇所でこういう対策をやっていきたいということを出させていただく形になると思います。

ぜひ、今回と同様の水害、今回と同様の雨の降り方、水の増え方、これには対応できると、これで住宅が浸水するということが起きないような対策を行っていこうと、千曲川から川が溢れてということが起きないようにしていこうということは、まずやっていこうと思っています。

それから松川の対策ですね。松川の対策は、まずしっかり復旧工事をやっていきたいと思っていますし、それから浸水想定区域図をつくっていきたいと思っています。これはもうできる？

【長野県建設部河川課長　吉川達也】

３月に公表します。

【長野県知事　阿部守一】
３月に松川から千年確率で千年に１回の雨量、豪雨があったときにどういう状況になるかという想定の地図を県から発表させていただく予定になっています。それは見ていただきたいと思いますし、それを踏まえて、今度は町のほうでハザードマップをつくっていただくことになるので、そこから先はどうやって避難するかというのは、町長にバトンタッチさせていただくという形になります。
まだ、川や畑、住宅の話とかいろいろありますが、内山さんがもうやめておけという話なので、後でまたお話ししたいと思います。よろしくお願いします。

【内山二郎　氏】
そうですね。コメントをいただきましたので、よろしくお願いいたします。
この３つの課題を７時半までに終えなくてはいけないということになっているのでちょっと大変なんです。それで、町長には先ほど３つの課題をおっしゃっていただきましたので、２つ目のテーマのところで町長にご意見をいただきたいと思います。
では、この災害を乗り越えて、「自分たちはどういうまちをつくっていきたいのか」というテーマに移りたいと思います。農業を含めたまちおこし、それから若者が元気な町、それから助け合い・地域コミュニティを全部復興する、災害に強いまちづくり、そのための人材が必要だという意見。それから安心感が持てる町。それから持続可能な町というようなくくりをしていただきました。全員のお声を聞けないのはちょっと心苦しいんですが、景観を考慮しながら遊休農地を有効活用する方法を考えていきたいというご意見のＭさん。どこにいらっしゃいますか、はい、お願いいたします。

【参加者Ｍ】
小布施町は観光の町ということで、最近は農家の高齢化、担い手不足という中で、遊休農地が目立つようになってきています。そうした遊休農地をうまく活用して、景観も保っていければというようなことです。

【内山二郎　氏】
小布施は景観のきれいなまちづくりということで、全国で有名ですけれども。そしてＮさんですね、内外に向けて自慢できる町というご意見。Ｎさん、お気持ちをどうぞ。

【参加者Ｎ】
町民の方々がこんな災害を受けてしまっても、やっぱり復興をみんなで頑張って、こういう状況だったけど、こういうふうな形になったんだよ、あのときは大変だったけど、今はこうなれてよかったねとか。外には、こういった形だったけど、こうなりましたというところで、観光も踏まえて、自慢できる町になってほしいなと思いました。

【内山二郎　氏】
自慢できる町ということですね、はい、ありがとうございます。
そして助け合い・地域のコミュニティということで、Ｏさんは、子どもも大人もあいさつのできる町、いつでも助け合えるためにということで、Ｏさん、はい、あちらです。はい、お願いいたします。お気持ちをどうぞ。

【参加者Ｏ】
　みんなが、どんなところでも会ったときに「こんにちは」って言えたら、もっと住みやすい町になって、困ったときにも「ねえ」って、声かけができるんじゃないかと思いました。

【内山二郎　氏】
　「ねえ」と声を上げられる町ですね。それからＰさんですか、日頃からの自治会、隣近所の親密な連携が必要であると、Ｐさん、はい、お願いいたします。

【参加者Ｐ】
　災害発生の翌日から公会堂で、内外の人たちがみんなでご協力していただいて、いろいろな支援をしていただいたのは本当にありがたかったんです。これも、やっぱり普段の、多少、煩わしいことがあっても、いろいろな自治会の中での交流というのを本当に大事にしていきたいなと思っていますので、これからもそうしていきたいと思います。

【内山二郎　氏】
　今まで、ちゃんとした人間一人一人の関係がしっかり結ばれている、そういう小布施だったがゆえに、こういう非常時にもそれが活きたということですね。
　そして、どこへ行きましょうか、こちら、災害のない強いまちづくりということで、Ａさんですかね、はい、自然災害に強い町であってほしい。先ほどおっしゃった、もう一言いいますか、もういいですか、わかりました、気持ちは伝わったと、はい。それから・・・

【事務局】
　障がい児・障がい者の方を含めた避難対策がきちんとできている町。

【内山二郎　氏】
　これはＪさんですね。Ｊさんは先ほどおっしゃいましたね。そしてもう１人、人材ということで。

【事務局】
　町に技術者がいない、どんなイメージか、ちょっと触れてみてください。

【内山二郎　氏】
　Ｑさんですね、Ｑさん、はい、お願いいたします。

【参加者Ｑ】
　町の中の防災の関係の専門家というのは、町民の人って、どういう人がいるかわからないけれども、やっぱり町民が集まったときに、そういうリーダーが必要というふうに思います。

【内山二郎　氏】
　リーダーをどう養成する、育成していくのかという問題。次、行きましょう、これも率直なご意見、はい。

【事務局】
　今、将来のことは考えていられないというお声をいただいて、ちょっと切実な気持ちがあ

りましてですね。

【内山二郎　氏】
Ｒさんですね。この声も聞けると思います。

【参加者Ｒ】
今は、私、災害を受けた住宅を何とかしたいということで、本当はもっと建設的な意見を書きたかったりするんですけど、今はそのことで頭がいっぱいで、とても将来のことを考えている余裕はありません。

【内山二郎　氏】
まだ３か月半です。まだ将来のことを考える余裕はありませんというご意見。これは切実な声ですね。安心感というところで、これはＳさんですかね、水害の不安を感じず安心して暮らせる町、発生時に素早く逃げられる町、Ｓさん、どこにいらっしゃいますか。

【参加者Ｓ】
設備のこともあるんですが、どこまで水が来れば危ないとかっていうことを住民の人が知っていて、事が起きたとき、みんなで逃げられるという体制がすぐつくれるというところも含めて安心な町ということです。

【内山二郎　氏】
安心できる町ということですね、はい、ありがとうございます。
次はどこへ行きましょうか。若者が元気、これ、Ｔさんですね。若者が元気、災害前の現状維持で若者が元気に暮らせる町、Ｔさん。はい、お願いいたします。

【参加者Ｔ】
とりあえず、やっぱり現状維持ということが大事だと思いまして、それでプラスアルファとして、よく言う、平凡な日々が過ごせるような町になればいいと思っています。

【内山二郎　氏】
ごく当たり前に暮らせる町、安心して暮らせる町ということですね。
町長さん、将来、この町をこんなふうにしたいというお声を何人か聞いております。まだまだいっぱいありますけれども、これまた後でフィードバックしますけれども、町長さん、お願いいたします。

【小布施町長　市村良三　氏】
さまざまなご意見をありがとうございます。私がお願いしたとおり、建設的なご意見ばかりでうれしく思います。一番うれしかったのは、今、将来のことは考えられないとおっしゃったＲさんですね。全壊です。

【内山二郎　氏】
全壊されたんですか。

【小布施町長　市村良三　氏】

全壊です。ですから、本当に何も考えられないとおっしゃったんですが、もう全然、お顔が違うんですね。もう３か月たちますが、ここ１か月ぐらいで前のようなお顔になった。さすがにここに何十年も暮らしておられた方だなと思って、大変うれしく思います。これが小布施の町の人の基本だというふうに私は思っています。

今、幾つかご意見がありました。例えば、一昨年の台風で町の東側が、風でもって、随分、りんごなどが落ちたんですね。被害額は、多分、似たぐらいあったかと思うんです。ところがそれを千曲川近辺の人はご存じなかったんですね。

例えば、先ほど申し上げたように平成16年、18年の頃というのは、水がいっぱいになってしまって、農産物が全部被害にあって、全然駄目になってしまったということを実は東側の方はご存じなかったんです。

要するに、何ていうんですか、あまり大きな災害というものが小布施町には発生をしていないので、災害に対する共有ができてないなというのをつくづく感じていて、一昨年ぐらいから自治会ごとに、連絡協議会をつくりましょうというふうなことで動き始めていた矢先に今回のことが起こって、小布施もいつでも災害が起こるんだということを、皆さんに本当に共有していただいた。

これはものすごいピンチで、被災された皆さん方が、これから本当に、先ほどお家を再建するのに全然お金が足りなくて困ったというようなご意見もありましたが、そのとおりだと思うんですね。そういうことを受けて、令和２年度からは、防災とそれを生み出す一因である環境ですね。それと、さらに言うと、これは知事さんに強くお願いしたいことなんですが、それらは全て土地利用計画、つまり都市計画が絡んできます。小さな市町村というのは、都市計画決定権がないんですね。私は、40年間、このことが不満でしょうがなかったんです。自分たちの町のことを何で県が握っているんだということです。それで、これだけ優れた町民の皆さんがおいでになる町ですので、ぜひその都市計画決定権を小布施町にくださいということを私は申し上げているんですね。

それはなぜかと言うと、防災にしろ、環境にしろ、そういうものは全て、やっぱり都市計画と結びついてくるからなんですね。それを、こういう言い方は非常にまずいですけど、ちょっとの間、都市計画室にいたよというような方によって、県から線を引かれてしまうのは大変困るというふうに私は考えております。

そういうことで、都市計画をもう一回考え直そうということになったときに、先ほど参加者の方がおっしゃったように、やっぱり地域会議というものがすごく重要なんですね。それは皆さんも同じことをおっしゃいました。自治会の力があったからこそ、今回、曲がりなりにもここまで来られたと思うんですね。日本中で失われているその自治会、あるいは呼び方によっては町内会というものが弱ってきている。これが日本にとっての私は危機だと思っているんですね。

ところが、やっぱりそういう土地利用計画の縛りがあって、例えばこの地域に10軒のお家を増やすことができたら、大きな開発なんかするわけないんですよ、うちの町は。農業の町ですから乱開発はするわけがない。どれだけ農業計画が大事か、農業の美しさが、そして農業のすばらしさが大事かということを、町民の皆さんは、景観ということをおっしゃいましが、みんな知っているんです。

それを壊すことなく、本当に小さな自治会の中で10軒、20軒増えたら、20年また持つんですね。そのくらいこの自治会活動は一生懸命やっているものであります。ですから、ぜひ、そのことも一緒に、県と、あるいは国と考えていきたいと思います。

はい、もうしゃべるのはやめろという教育的指導がありますのでやめます。ありがとうご

ざいました。

【内山二郎　氏】
　後でまた。ありがとうございます。
　そして、３つ目のテーマです。皆さんが書いていただいたものはまた全部整理して、お返しするようなシステムになっておりますのでご了承ください。
　３つ目のテーマです。「自分たちにできることは何か」ですね。こういう町をつくりたい。そのためには、私たちは何ができるかということです。備える準備、これは災害のことかな。それから知る・情報の問題ですね、情報の共有。それから組織・協働・住民の支え合いということですね。
　そして動くという、これはどういうことなんでしょうね。はい、聞いてみましょうね。

【事務局】
　災害はいつ発生するかわからないので、常に備えるという意識を持つこと、一人一人、避難袋と非常食とか、まずその辺の備えが大切だということ。この方は、今、避難対策を自作で、作成中ですとのことです。

【内山二郎　氏】
　聞いてみましょう。Ｕさん、自分でつくりつつあるということですか。

【参加者Ｕ】
　まちづくり委員会の安全部会というのが、12年前からあるんですけど、その中で、町民の自治会さんたちに呼びかける方策、避難対策をパソコンを使って作成しています。

【内山二郎　氏】
　今、作成している最中。

【参加者Ｕ】
　もうできているんですけど。

【内山二郎　氏】
　それを活用するということですね。ありがとうございます。
　次、どこへ行きましょうか。備える準備、今度は情報へ行きますか、はい。

【事務局】
　まずハザードマップの充実をしてほしいという指摘があります。それから、郷土史家として水害について調査しているという方。あと、自分の町以外の場所で、同じテーマでどんな話し合いがされているか、例えば今日のようなところで、他のところではどういう話し合いがされているのかということを聞いてみたい。こちらも似ていますが、小布施以外で被災されている町から、復旧に対してどう対応したかということを学んで広げていきたい。Ｉさん。

【内山二郎　氏】
　ではＩさんから聞きましょうかね、Ｉさん、もう一回。はい、マイクが後ろから来ました。

【参加者Ｉ】
他でも被害を受けているところがいっぱいあるので、それに学んでいくということは非常に大事じゃないかなと思います。それと、歴史に学ぶというようなことも書いたと思うんですが、ないですかね。

【内山二郎　氏】
ありがとうございます。ということで、情報を知る、情報を共有するということで、意見が入っています。そして、組織・協働・住民の支え合いというところで、お願いいたします。

【事務局】
住民が支える体制を強化したいですとか、老人クラブのつながりですとか、町の居酒屋さんとかレストラン、それから、つながりをつくっておくというご意見。最近では道具としてフェイスブックだとか、ラインだとかがあるけど、直接の顔のつながりは非常に大事だとおっしゃっています。自主防災組織を実地に即して確かめる会を開き、マニュアル化していきたいと思っています。ご自分の職業を越えて、多方面の方たちと交流の場をつくっていきたいというご意見。企業の支援がほしいというご意見。

【内山二郎　氏】
どなたから行きましょうか、Ｖさんはいますかね、はい、いっぱい書いていただいています。はい、お願いいたします。

【参加者Ｖ】
どれも読まれちゃったんですけど、まず老人クラブなんですけれども、今日、実は、ちょっと不謹慎なんですけれども、新年会がありまして、老人会に参加してきました。極力、65歳になったら参加しようと思っていたので、町ではその連合会から脱会する自治会も多かったりして、とても悲しいんですけど、自分としては、極力、参加したいなという思いで今日参加したら、最年少なんですけど、トランプゲームを提案して、ババ抜きから始めたんですけど、いまだ続いていて、出てこられなくて、何か、こんな提案がこんなにすごく和やかにするんだなと思ったら、とてもいい地域力になると思いました。

【内山二郎　氏】
そうですね、はい、ありがとうございます。もう１人、聞きましょうか、どなたか。先ほどのご発言といいますか、Ｐさんですかね、自主防災組織を実地に即して確かめ合う会を開き、マニュアル化したい、これ、大事なポイントですね。

【参加者Ｐ】
組織としてはあるんですけど、まさか、こんな災害があるとは思ってなかったので、組織があるだけで特に具体的な議論もしてこなかったと思うんです。これから、やっぱりこういった経験を踏まえて、いろいろマニュアル化して、こういうときはこうしたほうがいいよっていうことを話し合う場ができたらなと。自治会単位でですね。

【内山二郎　氏】
自治会単位で実際に使えるマニュアル化ということですね。ありがとうございます。
そして自分の職業を越えて、他の人たちとの交流の場をつくるということがやっぱり大事

ではないか、Ｗさん、はい、お願いいたします。

【参加者Ｗ】
　すみません、２番目のテーマに連動してというつもりで書いています。私、自分は農業をやっている者ですけど、今回のこのダメージで、間接的ではあるかもしれないですけど、商業の方も、工業の方も、ダメージを受けていますので、やはり、農業の町ではありますが、そういう人たちと一緒になって町をつくりながら交流の場をつくっていければなというふうに思っています。

【内山二郎　氏】
　農業・商業・工業が連携してということですね。そして動くということ、これ、ちょっと読んでおきましょうか。

【事務局】
　災害ボランティア活動に参加したいという方は大勢いらっしゃいます。その他にも、避難指示には速やかに従って、災害時に自主的に助け合う。それぞれ、何でもちゃんと声に出す。遠慮しないで、自分が必要としていることを皆さんに知っていただくということも大事だというご意見。誰とでも声かけして話し合いができるようなことを大事にしましょう、何ができるか常に考えて行動する、おせっかいぐらいがちょうどいいと思うというご意見。これはＸさん。農地を守りたい、荒らすことなく、次の世代につなげていきたい。そんなご意見をいただいています。

【内山二郎　氏】
　ではＸさんからお聞きしましょうか。おせっかいぐらいがちょうどいいではないかということですが、はい、お願いいたします。

【参加者Ｘ】
　実際、災害が起きて、１日、２日たったぐらいに、仲間内でもそうなんですけど、何か手伝わなくていいのかなと、何をやったらいいのかって、わからないっていう人が結構いたんですよね。そういったものを先導してもらう人も必要だと思いますし、そこにおせっかいぐらいがちょうどいいって書いたのは、自分で、立場・立場でできることを考えて、何ができるか、そういったことをやっていくのがいいんじゃないかと思って書きました。

【内山二郎　氏】
　あまりにも、やっぱり無関心になってしまっているんですね。そして人間関係が途切れてしまっているというのがありますけれども。おせっかいぐらいがちょうどいいんじゃないか、それが非常時に生きるんだということでしょうね。もう１人行きましょうか。

【事務局】
　農地を守りたい、荒らすことなく、次世代につなげていきたいとおっしゃっております、Ｙさん。

【内山二郎　氏】
　はい、Ｙさん。農地を守っていきたい。はい、こちらです。

【参加者Ｙ】
若い人たちが少しでも農業をやってみたいという人があれば、先輩がいろいろなことで支援していけたら、若い人も元気が出るんじゃないかなと思います。

【内山二郎　氏】
はい、若い人が、元気が出るようにね。そして、誰でも声かけ、話ができること、これは、自分たちにできることですけど、Ｚさんですね。はい、お願いいたします。

【参加者Ｚ】
先ほども町長がおっしゃっていましたけれども、災害のときに、西と東が分かれてしまって、情報が全く共有できなかったっていう話が出ていましたけれども、できるだけそういうものをお互いに声をかけ合って、情報を引き出すというつもりで書いてみました。

【内山二郎　氏】
ありがとうございます。そして、こちらはＡＡさんですか、災害時に自主的に助け合う、そういう関係を自分はつくりたいという、ＡＡさんかな、はい。

【参加者ＡＡ】
すみません、先ほどおっしゃった方のおせっかいぐらいがちょうどいいっていう感じとちょっと似ているところがあるんです。何かもう動かずにはいられなくなるところがあるので、組織をつくることもすごく大切なことなんだけど、やっぱりおせっかいぐらいにちょっとこう顔を出して、動き出してもいいんじゃないかなということを感じました。

【内山二郎　氏】
町長、やっぱり小布施は、そういう人と人との関係が非常に密度の濃い、歴史を刻んできたんですよね。

【小布施町長　市村良三　氏】
まさしく町民の皆さんの力だと思います。

【内山二郎　氏】
はい、ありがとうございます。ということで、ちょうど時間が迫ってきております。とりあえずここの問題はここまでとします。まだ、自分は話してないし、誰かと話したいという方もいらっしゃると思います。ここからは小グループに分かれて、それでこちらにファシリテーターがいますので、そのファシリテーターのリードで、グループごとに少し、まだしゃべり足りないことをお互いにしゃべり合って、それを記録に残していきたいと思います。
それではよろしいですかね。そうしたら、隣近所合わせて、６人か７人ぐらいずつ輪をつくってほしいんですが、ファシリテーターの皆さん、こちらへ出てきて、自分の担当の地域、グループをちょっと率先してください。お互いに向き合って、前後でみんな輪をつくってみてください。人数はこれだけですから、４～５人、ちょっと８人は多いと思います。６～７人で輪をつくりましょう。はい、輪をつくってください。
ファシリテーターの皆さん、それぞれのグループに入ってください。人数はもうあまり関係ありません、５～６人でいいと思います。

ファシリテーターの皆さんは輪に入ってください。そして、知事、町長さん、それから行政の皆さんも適当に輪に入って、住民の皆さんの声をお聞きしましょう。

＜グループ・ディスカッション＞

【内山二郎　氏】

グループ・ディスカッションの時間は、ここまでにしたいと思います。そのままの場所で結構ですけれども、自分以外のグループでどんな話が盛り上がったのかということを、この辺から聞いていきますかね。

このグループはどんなことで話になりましたか。皆さん、聞いてください。

【グループ①　ファシリテーター】

県の予算措置のところでは、県土の安全というところをしっかりしてほしいというふうなことが出ました。もう一つは、地域では危機感を持って対応していくということが大事と。これから地域でどのようにしてハザードマップなり、何かあったときの対策をどうとっていくかということに取り組んでいきたいなという話が出ました。

【内山二郎　氏】

はい、ありがとうございます。では拍手を。このグループは。

【グループ②　ファシリテーター】

まずは、今、やっぱり、どうしても排土の問題があり、財政的な負担はあるかと思いますが、この春までに何とか排土作業をということが一番の課題。

この災害の体験を踏まえてですけれども、誰も取り残されることのない、例えば避難先がないとかいう障がい者がいないようにというようなご意見をいただいております。

ただ、やっぱり町全体が、後継者不足といいますか、高齢化しているので、夢が持てるということで、何か精神的なインセンティブ、精神的にモチベーションが上がるような町をつくっていきたいということです。

これを踏まえてですが、国・県・町がうまく連携していただきまして、まずは体験、防災訓練も含めてですけれども、そこにしっかりと力を入れて、そこに町民も加わっていくということを実施してということでした。

【内山二郎　氏】

広範な話で盛り上がったんですね。はい、拍手、ありがとうございます。このチームは、どうなっていますか。

【グループ③　ファシリテーター】

こちらでは、住民の方々を中心に付箋では書き切れなかったことを拾わせていただきました。戸数が多い町で、全員での共有とか支え合いができていなくて、ちょっと不安になったねということとか、反対に、今回の災害を通して住民同士の助け合いがとても感じられて、そのまま自主的にやってもらえるというのがよかったですとか、河川敷内の畑の排土については、町長さんにちょっと入っていただいて、もう手をつけていくと、手をつけていくことが大事だからという、ちょっと力強いお言葉もいただきました。

その他、情報共有が大事だよねということになりまして、流域の世帯ですとか、その情報

共有って一言で言っても、情報共有の仕方・方法も含めて、今後、検討していかなくてはいけないんではないか。住民に対して情報共有も図りながら、情報共有のやり方も含めたところの検討ということを、これから、県も含めて、やっていく必要があるのではないかということが出ました。

【内山二郎　氏】
情報共有のやり方、はい、拍手。こちらは、はい、どうぞ。

【グループ④　ファシリテーター】
こちらでは、避難所を開ける順番によって物資が行き渡らないんじゃないかということが、ちょっと、今回、見えた部分もあって。ただ、それは計画を立てても、そのように起こるかわからないことになるかもしれないけれども、それでできることとしたら、やはり計画的にやっていくことも必要だし、あとは、皆さんは自主的に自分たちの生活を守るというのを備えているっていうことを実際やったらどうかということと、日頃からのつながりで、自治会の避難マップなども、今回、活用された方もいらっしゃったので、そういったことも、今後も引き続き大事になっていくという話が出ました。
あと、被害の差というのが小布施の中でかなりあったので、そこについても、もう少し目を向けてほしいなというご意見があったり、あと一つは、避難する人数については、多分、住民が避難する場所っていうのは大丈夫だと思うんですけれども、こちらは、やはり観光客が多いということもあるので、そういったときに、例えば地震とかといったときに、その観光客の対応も含め、そういったことも計画で考えていったらどうかというのも出ました。
あと一つは、ダムをつくるということも大事なんだけど、荒廃農地の利用や水田利用なども検討していったらどうかとの意見が出ました。以上です。

【内山二郎氏】
ありがとうございます。はい、拍手。こちらのグループは、はい、どんなお話が。

【グループ⑤　ファシリテーター】
こちらのグループは、皆さん、農業の方とか、商工会の方、あと排土を進める県の方が相当集まっておりまして、この中では、やはり先ほど付箋方式の意見交換で出ました、商業・工業・農業、みんなで力を携えて、小布施のまちづくりをしていきたいということと、そのためにはやっぱり知り合って、交流の場は必要ではないかということと、あとは、やはり小布施の農業は発展してもらいたいということで、大きな農家さんではない小さな農家さんまでもしっかり行き渡った支援ができるように応援していきたいという、そんなお話の中から一つ出たのは、ちょっと、私よくわからないんですが、地を這うドローンの話が。

【内山二郎　氏】
空中を飛ぶんじゃなくて、地を這うドローンということですか。

【グループ⑤　ファシリテーター】
はい。それが、もしかしたら、ＳＳ（スピードスプレヤー）でできるんじゃないか、でもできないんじゃないかと言いながらも、試してできるのなら、やってみる価値はあるなという、そんなような話も出ました。

【内山二郎　氏】
新しい技術革新の話まで行っちゃったんですね。はい、拍手、ありがとうございます。
はい、こちらは。

【グループ⑥　ファシリテーター】
こちらは、商工会の青年部員の方や副会長さんがいらっしゃいまして、ご自身でどんなボランティア活動をしたかとか、ご自身たちの仲間として集まって、被害に遭った方を助けに行ったというようなお話を聞かせていただきました。その中でもやっぱり、その現場とかで引っ張っていくリーダーの方がいるとうれしいなというお話が出ました。
あとは、町の同報無線でかなり危機感をあおったといいますか、あおられた中で、それで早めに避難できて、そのおかげで命が助かったという話がありました。

【内山二郎　氏】
それはよかった。

【グループ⑥　ファシリテーター】
よかったということになります。自分事になったということなんですね。あとは、またこの経験を生かして、まだこの熱い気持ちの中で、何かやっていこうというような話が出ています。

【内山二郎　氏】
はい、拍手、ありがとうございます。こちらのチームは、どんな話ですか。

【グループ⑦　ファシリテーター】
こちらは、地元の方がちょっと少なかったんですが、上がった意見としては、防災を町全体としてどう考えていくのかということを、また改めて考えなければいけないんじゃないか。今回は水害が主でしたけれども、土砂災害もあるし、火災だってあるだろうから、逆に河川の監視カメラだけではなくて、そういった災害にも目を向けられるようなカメラがあったらいい。それを見るケーブルテレビみたいなものであったり、インターネットとか、いろいろな形で見られるような状況になったらいいんじゃないかというご意見がありました。
あと、喉元過ぎれば熱さを忘れるじゃないですけれども、風化していくこともやっぱり心配されていまして、ずっと発信を続けていく仕組みというんですか、小布施だけじゃなくて、県内でどういう災害があったかというのを、誰でもいつでも見られるような、そういう仕組みもあったらいいんじゃないかというご意見でした。
あとは、実際に床下被害に遭った方なんですけれども、生活の水準によっては、その被害の状況、修繕費用って、何ていうんですかね、たくさん払っても苦にならないお宅もあるし、ちょっと少ない所得の中で、そこの修繕をするということがやっぱり負担になってしまう方もいるので、行政のその支援の区分っていうのが、ちょっと機械的ではあるんですけれども、結局、その制度の狭間から漏れてしまったというような方の声を、逆に当事者同士がちょっとしゃべれる場とか、そういうものがほしいなという意見が出ました。
あと、今後につながるという部分でいきますと、逆に、まずは家庭内での避難の仕組みというものを今回の災害を通して検討しながら、環境変化に速やかにというので、逆にそれを、今度、ちょっとずつ自分の家族から、地域とか、町全体へというふうに波及ができていければいいんじゃないかというようなご意見が出ました。以上です。

【内山二郎　氏】
はい、拍手。ちょっと時間が迫っておりますので、はい。

【グループ⑧　ファシリテーター】
こんな町になったらいいというところは、堤防の中の畑が、個人の所有と共有地があると。それをこれで手放す人だとか、いろいろばらばらになってくるだろうが、もし使えるところは、ぜひ有効利用を紹介するような、そういう仕組みもつくってほしいということと、あと地域でちょっとしたことや声を上げたことに、きちんと応えてほしいと。
ちょっとうれしい事例が一つあって、自治会長さんが、近所の80代の一人暮らしの方を頼むわっていうふうに言われたんだけど、水害のときに逃げましょうって言ったら、俺の家は２階へ行くからいいよって言われたと。でも、後から見たらね、多くのところでは、後でヘリコプターでつらされたり、あんなんじゃいけなかったんだと思ったんだと。この水害の後に、近所の人とその80代の人とお茶を飲む機会があって、うちは若い者が長野市にいるんだけど、やっぱり、今回、心配だったから、もし何かあったら、今度はお願いしたいと。だから、携帯電話を教えてくれないかいって言われたと。そのときに携帯電話を教えて、今度は一緒に逃げるときにはちゃんと逃げてくださいねっていうふうにお話ができたと。

【内山二郎　氏】
すばらしい話、拍手。とてもいい話。

【グループ⑨　ファシリテーター】
町にとって、氾濫があった場合は小布施全体が危なくなると。だから、小布施のどこかで、その避難場所を知っているだけじゃなくて、周辺の町村との連携も考えたらどうかなということ。
それから住民の、通常の、日頃の横のつながりを大事にしたいということ。それから居酒屋なんかで、３、４人で、グループで一杯飲みながらも、いろいろなことを語って、地域力を高めるということをやっていくことで、お酒を飲むことも大事だというお話が出ました。

【内山二郎　氏】
やっていらっしゃるんですね。

【グループ⑨　ファシリテーター】
そうですね。あと、安否確認というネットワークがあって、これも、今、力を入れていることで、非常に一生懸命やっているということがわかりました。
あと、松川と千曲川とのハザードマップをあわせた状態で、避難場所を考えたらどうかというようなご意見がありました。以上です。

【内山二郎　氏】
ありがとうございます。こちらのチーム、お願いいたします。

【グループ⑩　ファシリテーター】
２年連続で受けた災害、小布施でも台風の災害があったということで、一昨年の災害だと風でかなり被害があったというところで、若干、その被害を受けられたところと受けられて

なかったところの差があったようなところがあったんですが、今回の被害は、やはり比較しても、大きかったということで、やっぱり人ごとではなくて、ちょっと自分事として関心を、やっぱり無関心でなくなってきたというところは、これまでを振り返って学びになってきたのかなというお話がありました。

農家さんのつながりだったり、それぞれのネットワークやつながりの中で、それぞれ情報共有しながら、お互いを気にかけ合っているというところがありまして、先ほどの町長さんのお話にありましたけれども、これから先、まちづくりを含めて、復興だったり、夢を持ってこれからの小布施を考えるときには、やはり若者の力がキーパーソンになるのかなというようなお話もありました。

先ほど、ほかのグループのところでも、今回の農業支援というところのテーマの中で、農協の青年部さんとか、そういったところにも、お声がかかればよかったねというお話もあったように、若い方がこういうところに出るのも、やっぱり重要なんじゃないかなというお話もいただいています。

【内山二郎　氏】

拍手、ありがとうございました。こちらのグループの皆さん。

【グループ⑪　ファシリテーター】

こちらのグループでは、まず、これからのことっていうか、自分ができることっていうよりかは、要するに、自分たちが住んでいるところがどうして越水をしたのか、そのそもそもの原因は何だったのか、それに対する対策というのを今日は聞いて、どうするかということを話す機会ではなかったかという話がありました。

【内山二郎　氏】

違ったという感じですね。

【グループ⑪　ファシリテーター】

ここでお話をしていただき、県の方も話をちゃんと引き続きしてくれて、持ち帰りますという話をしていました。

【内山二郎　氏】

原因と対策、非常に本質的な問題ということですね。

【グループ⑪　ファシリテーター】

安心して暮らせるようにということで、このままではやはりちょっとここに住めない。

【内山二郎　氏】

安心して暮らせる地域をどう具体的につくっていくかということを大切にしてほしいということですね、はい、ありがとうございました。

時間がちょっと過ぎておりますが、ざっと11の全部のグループに発表していただきました。主に浮き上がってきたキーワードは何ですか。

【事務局】

地域全体として、夢が持てる町というところでは、商業・工業、若者、いろいろな皆さんの

力というものをつなげていきたいというところがまず１点目です。
　もう一つは、防災。防災というところでは、日頃の訓練であるとか、備えを見直していく。また、情報共有とか、今ある機器の活用のほかに、逆に地域内での見守りとか、声かけというようなソフト面の今まで培ってきた小布施のそういった力を生かしていけたらいいのではないかということ。
　３点目で、誰も取り残されないような防災力、安心して暮らせる町をつくりたいというところで、防災というのを台風以外にもさまざまな災害を町全体で考えていきたいというふうな皆さんの思いを受け止めました。

【内山二郎　氏】
　ありがとうございます。ちょっと時間がなくてね、十分でなかったかもしれませんけれども。ここで最後のコメントになります。町長さん、そして知事に最後のコメントをいただきたいと思います。町長さん、４分30秒ぐらいでお願いしたいと思います。

５　小布施町長総括コメント
【小布施町長　市村良三　氏】
　そんなにはかかりません。本当にありがとうございました。全部のところを回り切れなかったですが、いろいろなお声が聞こえてまいりました。中には私がいない方がいいなと思われるチームもございました。それも一つなんだろうなと思います。
　今のいろいろな建設的なご意見の中で、私が一番心に残ったことがあります。それは、違う言葉で同じことをおっしゃっているんですが、私たち小さな町で、本当にここにいらっしゃる方がほとんど全部わかるというぐらいな小さな町なんですね。そういう中で、いろいろな救援のパッケージで、大した額でもないんですけれども、ご支援を申し上げたつもりだったんですが、そういう制度の中から漏れている人たちのつぶやきを聞いてほしいというお話がありました。それからもう一つ、小さな声が届くようにと。同じことをおっしゃっているんだというふうに思います。
　私たちが何でこの小さな町を愛するかといったら、そういうことが確実に届くのがこのちょうどいい小布施の町だろうと思っています。この制度の中から漏れてしまったということ、それから小さな声が届くようにということを、今日は、もう一度、肝に銘じさせていただきます。大変ありがとうございました。

【内山二郎　氏】
　ありがとうございます。それでは知事、お願いします。

６　知事総括コメント
【長野県知事　阿部守一】
　皆さん、今日は大変ありがとうございました。ちょっと前段で話せなかったことを話したいと思います。まず全体的に河川の対策、浸水対策をしっかりやれよなということ。それから被災された農地、排土も含めて、できるだけ早く復旧をさせ営農意欲がなくならないようにしなければいけない。さらには住宅が被災された方たちや、直接的な支援がなかなか行き届いてないところもあると思いますが、一日も早く普通の暮らしに戻っていただけるように取り組んでいくこと。
　そして、今日、地域コミュニティの話がいろいろな方から出ていますが、やはり日頃から顔の見える人間関係の中で、しっかりと支え合えるコミュニティをつくっていくこと、こう

したことが皆さん方の共通するテーマじゃないかなと受け止めさせていただきました。今、申し上げたような点については、県としても問題意識をしっかりと受け止めさせていただいて、取り組んでいきたいと思っています。

千曲川と松川の話だけ、河川課長から少しコメントしてもらったほうが、多分、もう少し話を聞きたいと思っていた人にとっては、若干、曖昧さが残ると思うので、川の話だけしてもらってもいいですか。

【長野県建設部河川課長　吉川達也】

県の河川課長の吉川と申します。千曲川と松川につきまして方向的なお話をしたいと思います。千曲川につきましては、先ほど知事から話があったとおり、先週の金曜日に千曲川緊急治水対策プロジェクトというのを国と県で発表しました。目標は同じ災害があったときに堤防を越えないようにということで、遊水地ですとか、狭窄部の対策をして、水を流れやすくするという対策をとっていきます。

あわせて、流域対策として、降った雨をその場でとどめさせる水槽設置ですとか、各お宅に屋根から樋のところにタンクをつけてもらったり、グラウンドですとか、田んぼですとか、ため池を利用して、川に負荷をかけない対策を、これは、主に市町村と県が連携してとっていくと。

最後にソフト対策で、そうはいっても、川が全て安全になるわけではない、溢れたときにどうするかというお話が先ほど出ました。これが、災害に強いまちづくりにつながっていくと思うんですが、ソフト対策で、我々が持っている情報を細かに隅々まで届けさせる情報ですとか、いざ避難をどうするかという部分、ソフト対策については、これも県と国と市町村が連携をしてやっていくということになります。そういった対策をすれば、同じ雨が降ったときに溢れないという対策になります。

それから、ただ支川がありますので、支川の松川については、また千曲川とは別の対策をとっていかなければいけないということで、今回の水害で被災を受けている部分がありますので、そこの部分は早期に復旧を、護岸のつくり直しをいたします。それから、堤防から幾らか水が漏れているという、漏水があったということですので、止水手当てをして堤防の強化を図ります。

それから、先ほど、このグループに私が行ったときにお話が出たんですが、土砂の堆積が進んでいるということで、しっかり土砂の浚渫（しゅんせつ）をしないと、幾らハザードマップをつくってもだめじゃないかという意見をいただきましたので、それはしっかり浚渫（しゅんせつ）をして、川の断面を確保するということにします。

そういうハード対策をやっても、計画を超える雨というのは、今回のようにあり得るので、その部分についてはこの３月にハザードマップの元となる浸水想定区域図というのを公表します。それを見ていただいて、皆さんの住んでいる土地が、そのお宅が、どういった危険性があるかというのを見ていただいて、いざといったときはどこに避難する、どういうところを通ったらいいのかというのを見ていただきたいと思っております。よろしくお願いします。

【長野県知事　阿部守一】

ありがとうございました。先ほどもこっちで松川の浚渫（しゅんせつ）の話があって、私、予算はいっぱいつけるけど、具体的にどうするのかということを、今、話してもらいました。ちゃんと河川課長がお約束していますので、しっかり浚渫（しゅんせつ）は進めていきたいと思います。

その他の点ですが、今、県で「『いのちを守る』防災力向上プログラム」というのをつくっ

ています。先ほどから地域でいろいろなことをちゃんとやらなければいけないよねというお話が出ていますが、どういうことをどういう形でやってもらうといいんじゃないんですかということを出そうと思っており、今年度中に出る予定になっていますかね、もう来年度の頭には小布施町には確実にお届けできると思いますので、また、自治会、町内会単位でこんなこと、あんなことを考えていただくといいですよということをお示ししますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

例えばその中で、地域の支え合いマップというのを長野県は進めようとしています。小布施はこれをつくっていただいているのか、ちょっとよくわからないんですが、やっぱり日頃からちゃんと、どこにお年寄りの方がいて、障がい者の方がいて、誰がどうやっていざというときに声をかけて助けに行くかというようなものも、できれば事前に考えておいてほしいと思っていますし、いざというときにどうやって避難すればいいのかとかですね、事前にどんなことを考えておけばいいのか、そういうことをお示ししたいと思っていますので、ぜひよろしくお願いいたします。

それから、コミュニティの関係で言えば、先日、私、豊野地区に行って、ぬくぬく亭というところで落語をやっているところにお邪魔しちゃったので、あんまり皆さんの邪魔しないように、こっそり入って、こっそり抜けてきました。

地域のコミュニティは、いざ災害というときの避難の際にももちろん重要ですし、本当に今回の災害を振り返って、その後の心のよりどころというか、支え合いとしても、極めて大きな役割を果たすということを私自身、痛感しています。小布施町は住民の皆さんの力ですばらしいまちづくりを進めてこられたところですので、防災、安全という面でも、ぜひ地域力をさらに高めていっていただければありがたいと思います。

それから、河川の対策で、例えば、河川砂防情報ステーションというものについて、先ほども私のグループでちょっと話が出ていましたが、河川の整備とか、今、インターネットでリアルタイムでご覧いただいだけるようになっています。もちろん市町村から避難指示とか避難勧告が出ますが、そうした情報提供も我々ももっともっと行って、自治会でご覧いただいたり、多くの方にご覧いただいて、これは何とか早く避難しなければいけないんじゃないかというような情報も、できるだけ早く伝えていくようにしていきたいと思います。また、河川の監視カメラも、相当程度、しっかり増やしていきたいと思います。そういう意味で、できるだけ情報をきめ細かくお出しできるような形にしていきたいと思っています。

ただ、私のグループでも話に出ていましたが、ぜひ大雨が降っているときは川には近づかないでいただきたい。どうしても心配だからと見に行きたくなってしまいますが、それは極めて危険です。そういう行動をとらないように、我々、情報を出さなければいけないと思いましたので、ぜひよろしくお願いいたします。

それから、風化が不安だという声。実は県内のいろいろなところでそういうお話があるので、決して被災された方々を忘れないということで、「ＯＮＥ　ＮＡＧＡＮＯ」という取り組みを行わせていただいています。今もこれからも、台風19号災害以降、長野県の最も重要なテーマは、この台風19号災害からの復旧・復興だということで取り組ませていただいていますので、今でも多くの皆さんが、暮らし、そして産業、生業（なりわい）に非常に困難を抱えていらっしゃるということは我々も十分認識していますので、このことをぜひ多くの県民の皆さんとも共有をしながら対応していきたいと思っています。

そういう意味で、例えば義援金もずっと呼びかけ続けています。今日も私、義援金を企業の方から受け取ってきましたが、また近々、配分をさせていただく形になろうかと思います。市町村で集められる部分もあると思いますが、県から配分させていただくのは、１回目よりも多くの皆さんからご協力いただいたので、１回目の配分よりも金額が多かったです。まだ

まだ、これからもそういう呼びかけはきちんと行っていきたいと思いますので、ぜひ応援をされる皆さんが見えるように、皆さんからもいろいろな方に、あるいはこういう状況だからこういうところを応援してくれというのを伝えていっていただければありがたいと思います。

それから、制度の狭間みたいな話がありましたが、先ほど市村町長からもまちづくりの権限の話がありました。これは我々にとっても重要な課題で、県だけでも自由にならないこともたくさんあります。中央集権から地方分権に変えていかなければいけないと思いますので、この機会にいろいろ国にも県からもしっかりと問題提起していきたいと思いますので、ぜひ一緒にお願いをしたいと思います。

それから、農地の有効活用という話は、ぜひそういう仕組みを考えていかなければいけないなと思いますし、先日、農業経営士会の皆さんとお話ししたときに私からお願いしたのは、今回の災害で農業団体の皆さんが大分活躍していただいているんですが、やっぱり農家の皆さんの支援は、本当は農家の皆さんが被災された農家の気持ちも一番わかっているので、農家同士のネットワークをもっとつくってもらえるといいんじゃないでしょうかという話もさせていただきました。そういうものも県全体でしっかりと考えていきたいと思います。

あと、いろいろありますが、復興したという姿を見せたいという先ほどどなたかのお話にあったと思いますが、まだ復旧・復興に全力で取り組まなければいけない状況ですので、まずはそこに注力しなければと思っています。私の思いを申し上げれば、本当に全国から多くの皆さんが、義援金とかボランティアとかでお気持ちを寄せてもらっています。私も銀座ＮＡＧＡＮＯで、「復興りんごです」と言って、義援金付きのりんごを販売させていただいたときも、「本当に長野県、大変ですね」、「りんごを買って応援できるのなら応援しますよ」というふうに、町を歩いている人たちから本当に温かい声を随分かけてもらいました。

そういう意味では一定の復興ができた段階では、そういう人たちにも、やっぱり、お礼の気持ちをしっかり伝えなければいけないと思いますし、こんなに千曲川流域も立ち直ったよという姿をぜひ見せられるようにしていきたいなと思っています。そのときはまた、ぜひ皆さんにはご協力をいただければありがたいなと思っています。

ちょっと時間が過ぎているので、今日、まだ言い足りないなと思っていらっしゃる方も随分いらっしゃるんじゃないかと思います。我々これからも被災された皆様方の声にしっかりと耳を傾けて取り組みを進めていきたいと思いますし、まずは、この台風19号災害からの復旧・復興を最優先の課題として、県としては全力で取り組んでいきます。

どうか、我々行政だけではできないこともたくさんありますので、ぜひ地域においても支え合い、助け合いの精神で前を向いて地域が発展するように、復旧・復興へ立ち直っていくことができるように取り組んでいただきたいと思います。

それと同時に、千曲川の対策も含めて単なる復旧を行うだけではなくて、より災害に強い長野県づくりも進めていきたいと思っています。そういう意味では、例えば、備蓄物資なんかも今回の災害を教訓にしてもっと種類を増やさなければいけないなと思います。被災住居を増やしたり、あるいはプライバシーを保護するためのテント類や、体育館の中でも単なるパーテーションだけではなくて、特にプライバシーに配慮が必要な方はそういうところに入ってもらえるような仕切りとかですね、県としても今回の災害をしっかりと振り返りながら、改善できるところはちゃんと改善していくという姿勢で取り組んでいきます。

ただ我々だけではまだ気がつかないことがたくさんあると思います。今日も私、こうやって皆さんとお話をさせていただいて、いろいろな気づきを与えていただけて、本当に感謝しています。ぜひ今日も大勢の県の職員がこの中に混ざってお話を聞かせていただいていますが、我々もしっかり皆さんの声をこれからもお伺いできるようにしていきたいと思いますし、ぜひ皆さんのほうからも、例えば「県民ホットライン」というようなもので、メールとか、お

手紙とかいただければ、しっかりと我々対応するシステムをつくっていますので、今日、言い足りないことがあれば、ぜひそういうところでまたご意見、ご提言をお寄せいただければありがたいと思います。

今日、内山さんが大変和やかにすばらしい進行をしていただいたことに心から感謝を申し上げ、そして被災された皆様方には改めてお見舞い申し上げるとともに、県も引き続き全力でこの復旧・復興、そして災害に強い県づくりに取り組んでいくという決意表明をさせていただいて、私からのあいさつとさせていただきたいと思います。今日はありがとうございました。

【内山二郎　氏】

町長さん、知事、本当にありがとうございました。時間がもう過ぎてしまっておりますが、今日の県政タウンミーティングは19号台風の後、県下で初めてのタウンミーティングです。

これがこんなに皆さんの積極的なご参加によって盛り上がり、成功し、未来に向けてのさまざまなご意見を聞けたことは大変な成果だったと思います。それでは、マイクを総合司会にお戻ししたいと思います。どうも皆さん、ありがとうございました。

【長野県企画振興部広報県民課長　池上安雄】

内山さん、皆さん、どうもありがとうございました。知事からもお話がありましたが、本日、時間の制約もございましたので、まだまだご意見が他にあれば、随時、県・町の方にお寄せいただければと思います。

最後に、内山さんに、もう一度、皆さん、盛大な拍手をお願いいたします。

【内山二郎　氏】

今日、皆さんから付箋をこれだけいただき、グループミーティングの中ではいろいろなご意見が出ました。それをファシリテーターが全部整理して、行政のほうにフィードバックすることになっておりますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

７　閉　会

【長野県企画振興部広報県民課長　池上安雄】

ありがとうございました。それでは以上をもちまして、県政タウンミーティングを終了します。町民の皆さん、ご協力ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。